

クマ被害のない安全な日常生活の確保について

1 市内のクマ出没状況

通報件数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
4月	9	4	13	6
5月	7	16	25	17
6月	19	45	46	24
7月	4	17	11	28
8月	7	8	5	6
9月	1	7	7	5
10月	0	11	2	29
11月	1	4	0	35
12月	0	5	3	—
1月	0	1	1	—
2月	0	0	1	—
3月	0	1	0	—
計 (年度)	48	119	114	—
計 (11月まで)	48	112	109	150

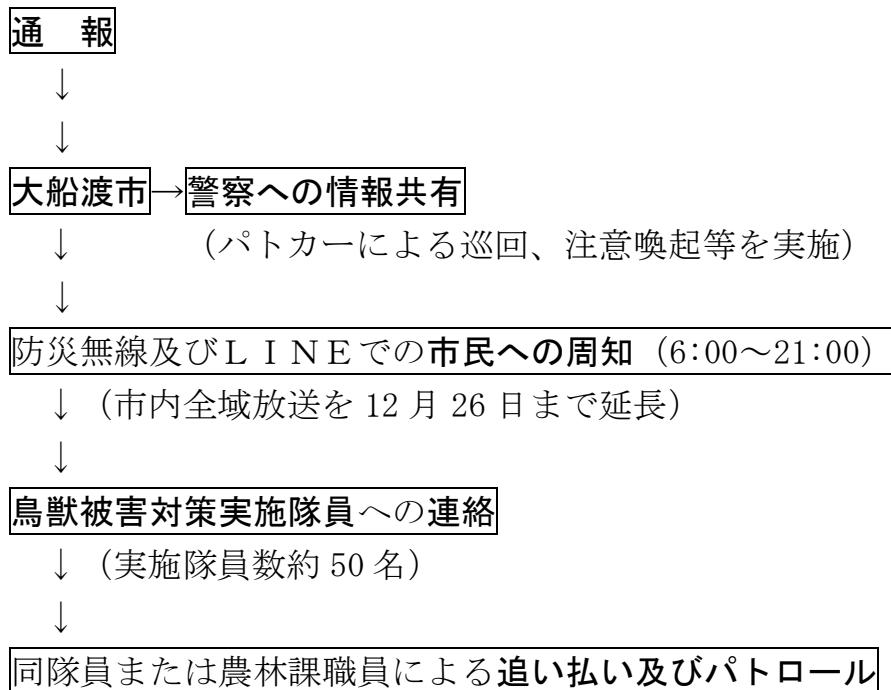
※令和7年度は、11月28日時点の数値。

2 クマの出没要因

- 林業や狩猟など、森林内での人間の活動が減少したことによって、森林内で人に追われる機会が減少し、人間への警戒感が薄れている。
- 耕作放棄地の拡大、放任果樹の増加等により、人間の生活圏周辺がクマの生息に適した環境に変化しつつあり、集落周辺に定着した個体も見られる。
- 市街地等の周辺に生息している個体が、放任果樹や生ゴミなどに誘引されたり、森林から連続的に伸びる緑地（河川敷、都市公園など）や河川等を利用したりして、市街地等に侵入している。
- 秋期の出没は、ブナ科堅果類（どんぐり、クルミ、クリ）など、主要な食物の資源量の影響を大きく受ける。

3 クマ出没時の対応

(1) 連絡・出動体制、対応



※出没が頻繁にある場合等には、はこわなを設置して捕獲する。

(2) 「緊急銃猟」による対応

○「緊急銃猟」とは

クマやイノシシが人の生活圏に侵入した際、人命や身体への危害を防止するため、市町村長の判断で銃器を用いた捕獲を可能とする制度です。

今年9月に施行された改正鳥獣保護法に盛り込まれたもので、一定の条件下でのみ実施され、住民の安全確保を最優先としています。

○「緊急銃猟」実施の条件

- 1 人の生活圏への侵入、または侵入するおそれが大きいこと
- 2 人命・身体への危害を防止するための緊急性が認められること
- 3 銃猟以外の方法では的確かつ迅速な捕獲が困難であること
- 4 住民や第三者に銃猟による危害を及ぼすおそれがないこと

4 クマによる被害を防ぐために

○別添リーフレット「クマに注意！」を参照のこと。

参考 クマ捕獲方法の整理表

捕獲方法の種別	実施する状況	想定される捕獲状況	使用する猟具	許可権者
通常の有害捕獲	農作物被害が発生した場合、または頻繁に出没し人身被害のおそれがある場合。	○りんごの果樹園で食害があつた。 ○住宅付近の同じ場所に何度も出没する。	はこわな	都道府県
緊急銃猟	人の日常生活圏で「膠着状態」となり、安全確保が可能等の要件を満たす場合。	○河川敷を数時間にわたってうろついている。 ○スーパーに立てこもり、はこわなを設置しても捕獲に至らない。	銃器	市町村
警察官職務執行法（警職法）	現に人が襲われている、もしくはそのおそれが大きい場合。	○公園で人が襲われている。 ○人を襲いながら街中を走り回っている。	銃器	警察

岩手県ツキノワグマ

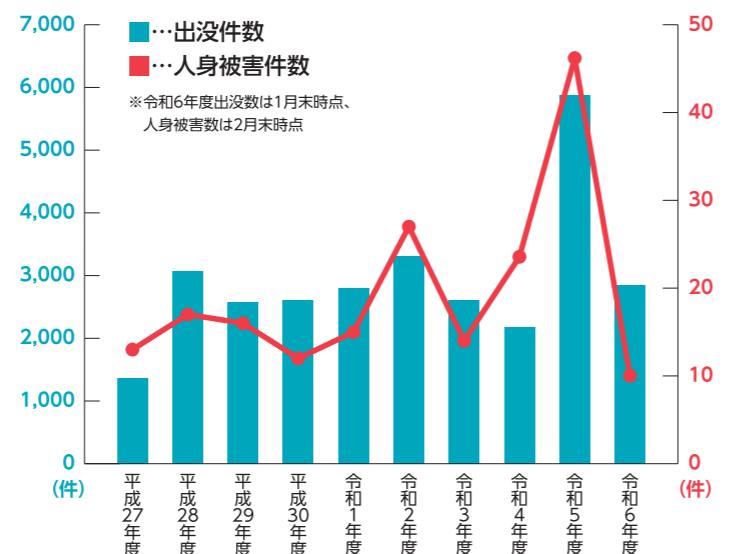
出没データ

岩手県には、ツキノワグマが県内全域に約3,700頭(令和2年度末時点)生息しています。

近年、中山間地域の人口減少や高齢化による耕作放棄地の増加等に伴いクマの生息域が拡大し、人身被害や農作物被害などによる人のあつれきが増大しており、出没件数も増加傾向にあります。

また、人身被害は、クマの本来の生息地である山間部での発生が6割となっていますが、近年は人里での発生が増加傾向にあります。なお、山間部での事故は、山菜採り等(キノコ採り、釣り含む)が約6割を占め、人里では日常生活(散歩等)や農作業中の発生となっています。

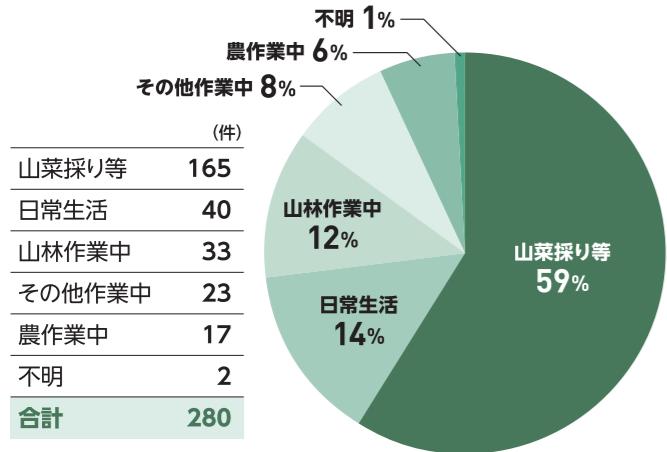
クマの出没件数及び人身被害件数 [平成27年度～令和6年度]



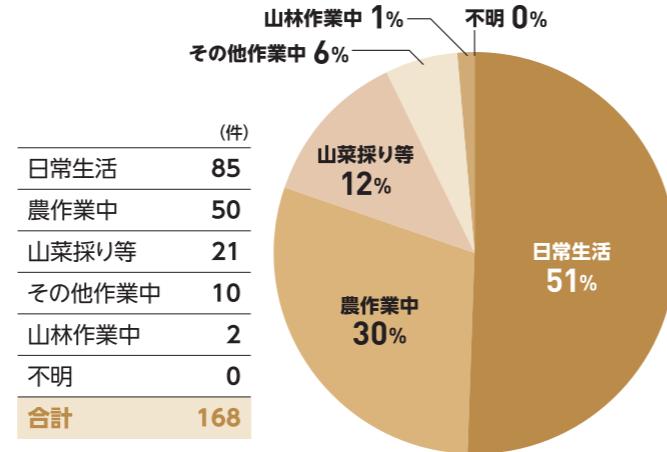
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
出没件数(件)	1,370	3,070	2,575	2,612	2,806	3,316	2,602	2,179	5,877	2,848
人身被害件数(件)	13	17	16	12	15	27	14	23	46	10
山での人身被害(件)	8	14	10	10	10	11	5	15	17	5
人里での人身被害(件)	5	3	6	2	5	16	9	8	29	5

※令和6年度出没数は1月末時点、人身被害数は2月末時点

山での被害発生状況 [平成15年度～令和6年度]



人里での被害発生状況 [平成15年度～令和6年度]

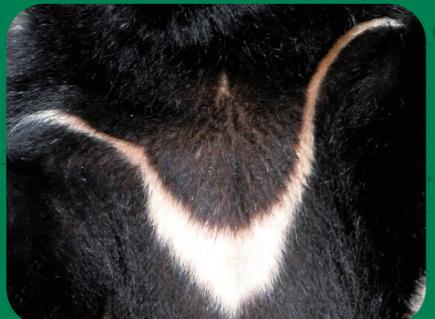


クマに注意!

思わぬ被害を防ぐためにツキノワグマのことを知る



ツキノワグマってどんな生き物?



胸に「月の輪」のマーク

胸部に月の輪模様があるのが特徴です。月の輪模様は個体によって様々で、模様がない個体もあります。



鋭い爪の持ち主

鋭い爪と可動域の広い関節を持ち、上腕の筋肉が発達しています。そのため、基本的には木登りを得意とします。



高い学習能力と発達した嗅覚

高い学習能力を有し、人間の食べ物の味を覚えると、執着して出没を繰り返します。

こんな
特徴も

クマは小さな音でも聞き分ける能力(聴覚)、イヌのようにわずかなニオイをかぎわける能力(嗅覚)を備え、優れた運動能力を持っています。時速40km以上で走ることができます。ほか、泳ぐのも得意です。

ツキノワグマの生活

体長	100~150センチメートル
体重	30~100キログラム
臭覚	敏感
聴覚	優れている
視力	あまりよくない
性格	子連れの母グマは、子グマを守ろうと攻撃的行動をとることが多いため注意
特技	木登り、水泳、走るのも速い
食べ物	ドングリやクリ、山菜やタケノコ、昆虫、ヤマブドウなど
習性	急に背中を見せて走って逃げると反射的に追いかけてくるといわれている(逃げるものを追いかける)

- 一般的に昼行性で、特に朝と夕方の薄暗い時間帯にもっとも活発に活動します。
- 人里の農作物や実のなる庭木などに通うことを覚えたクマは、人目を避けて夜行性に変わることが知られています。



冬眠から目覚める季節。クマも山菜を求めて行動しているので、山菜採りで山に入る人がクマに出会いやすい時期です。

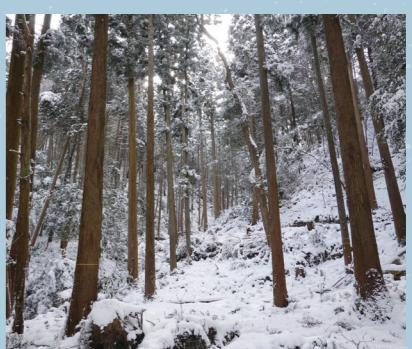


成獣は繁殖、1歳半の幼獣は独立立ちの季節。徐々に草木の葉は堅くなり、山の中の食物が最も乏しくなる季節でもあります。農作物を狙って出てくるクマと人里周辺で出会いやすい時期です。

季節ごとの生態・習性



冬眠に備えて脂肪を蓄える季節。キノコ採りで山に入る人がクマに出会いやすい時期です。クリ拾いも要注意。ドングリなどの山の実りは、豊作と凶作の年があり、凶作の年は、食物を求めてクマが行動範囲を広げます。その中で人里へ出没してしまう個体が増えるため、山の中だけでなく人里でもクマとの遭遇リスクが高まります。



冬眠します。冬眠は食物のない季節を乗り切る戦略なので、暖冬でも食物が無ければ眠ります。妊娠したメスは冬眠中に出産します。

クマに出会わないとために

山でクマに遭遇しないために

クマに出会わないとために、山へ入るときは対策を!



複数人で行動し、明け方、夕方の入山は避ける(入らない)

ツキノワグマは明け方と夕方に行動が活発になります。時間帯を選んで入山しましょう。



音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール

クマは臆病な性格です。クマ鈴やラジオなどで人間の存在をアピールすれば近付くにくくなります。



食べ残し等、エサになるものを放置しない

お弁当やお菓子の食べ残しなどはクマのエサ。放置すると、クマをおびき寄せてしまう可能性があります。



いざという時の撃退グッズ

注意してもクマとバッタリ遭遇してしまう可能性があります。クマスプレーなど撃退グッズを準備しましょう。



農地は電気柵で囲いましょう

クマ対策には電気柵が有効です。また、規格外で廃棄した作物も放置せずに処分しましょう。



実のなる樹木は要注意

クリやカキなど実のなる庭木は、早期に実をもぎ取る、伐採する、トタンを巻く、電気柵で囲うなどの対策を。



人間の生ごみはクマのエサ

コンポストやゴミもクマを引き寄せます。クマが出没しやすい場所では利用を控えるなどの対策を。



草刈りで見通し良い環境を

見通しが良くなると隠れる場所がないので、クマが通りにくくなります。環境を整備し近付きにくくなる対策を。



- 単独での入山を避け、複数人で行動しましょう。
- 山菜やキノコ採り中などで座っている状態や立ち止まっている状態では鈴は鳴らないので注意が必要なほか、渓流釣り中は沢の音で鈴やラジオの音がかき消されてしまうので注意が必要です。



- 人里でもクマに遭遇することはありますので、庭仕事や農地での作業時にはラジオなどで音を出して人の存在をアピールしましょう。
- 散歩時は藪などの茂みに不用意に近づかないようにしましょう。
- クマが侵入しないよう、自宅や倉庫などの施錠を徹底しましょう。

もしクマに出会ってしまったら...

出会ったときの行動



背を向けて走って逃げない

クマは逃走する対象を追いかける傾向があるので、背中を見せて逃げ出すと攻撃性を高める場合があります。



目を離さずに静かにゆっくり後ずさる

急に大声をあげたり、急な動きはしないで、クマを見ながらゆっくり後退し、落ち着いて距離をとるようにします。



親子グマに注意

子グマが単独でいるような場合でも、すぐ近くに母グマがいる可能性が高いため、近づくことはせず、周囲を確認しながら速やかにその場から離れが必要です。

襲われそうになったら...



風向きに注意して撃退スプレーを使う

風向によっては噴射した本人へも影響がありますが、それでもクマからの攻撃を回避するためには、躊躇せらずスプレーをクマの顔に向かって噴射することが重要です。



クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

顔を攻撃されることが多く、命に別状がないとも、失明などの深刻な後遺症や大きな傷跡が残ります。とにかく顔と頭部を守ります。

情報を知る・共有する

岩手県では「ツキノワグマ被害防止対策」をホームページに掲載しています。

普段からツキノワグマの情報をチェックして対策しましょう。



ツキノワグマによる
人身被害状況・出没状況(岩手県)



クマを目撃したら
お住まいの
市町村へ
通報をお願いします

ツキノワグマ
管理検討
協議会



クマと共生するため、岩手県ではツキノワグマ管理検討協議会を設置しています。

ツキノワグマの保護・管理を的確に実施するため、学識経験者や関係団体等で構成するツキノワグマ管理検討協議会を毎年開催しています。協議会では、管理計画の評価・見直し、捕獲上限数の設定、生息数モニタリングの評価・分析等を行っています。

クマやその対策に関する正しい情報を周りの人と共有しましょう!

参考 ツキノワグマの痕跡



足跡

(左)畑のクマの足跡。人の手のひらと同じくらいの大きさとわかる。
(右)クマの前足の足跡。



糞

(上)クワの実を食べた後のクマの糞。
(下)堅果類(ドングリ)を食べた後の糞。
古くなると表面が乾燥し色が変色する。

爪痕

クマによる樹皮はぎ。縦に前歯で削った跡が残る。樹皮をはがす際に爪痕がつくこともある。



◎写真提供:岩手大学ツキノワグマ研究会